



第16回 わたしの主張美濃市大会

それぞれが抱く美濃市への思いや
将来の自分への思いを

小中高生が発表

■ 第16回 わたしの主張美濃市大会を開催

2月1日(土)に市内の小学生、中学生、高校生が、自身の考えを発表する「わたしの主張美濃市大会」が文化会館で開催され、大会では13名の児童・生徒が発表しました。

広報みのでは、発表の一部を紙面で紹介します。(敬称略・順不同)

主催：美濃市青少年育成市民会議



マナーが作る美濃市の未来



永井 結衣
(藍見小学校6年)

「マナーからルールへ、そしてマナーへ」
これは道徳で勉強した話の題名です。たばこのポイ捨てを減らすために、ルールを作った町の話でした。その勉強でルールとマナーの違いについても知りました。
ルールとは誰かが決めたことを守ら

されることで、マナーとは罰金や罰則がなくてもその人の判断力や思いやりの気持ちでより良い行動を選べる力だと知りました。
数か月後、私が犬の散歩をしていると、近所の人が話しかけてきました。その人の飼っている犬がたばこの吸い殻を食べてしまい、緊急で病院に行っただけです。たばこの吸い殻にはニコチンという有害物質が残っています。注意深く見てみると、たばこだけでなく、公園にはごみも落ちていました。では、どうしたらきれいな町になるのでしょうか。
私たちがみんなが、ルールではなく、マナーで自分の行動を決定したら、きっと美濃市は今よりもっと魅力的な町になると思います。
私は、自分でより良い行動を判断できる人になっていきたいです。

大矢田の良さと文化



梅村 唯斗
(大矢田小学校6年)

ぼくは、今まで育ってきた大矢田が大好きです。大好きな大矢田の良さを三つ紹介します。
一つ目は、自然です。大矢田は山々に囲まれて緑が多いです。そんな自然が豊かなところで、ぼくたちは毎日きれいな空気を吸って

とても元気に暮らしています。
二つ目は、文化です。大矢田には昔から伝わる文化があり、有名なものにひんこと大矢田神社があります。
三つ目は、人の優しさです。大矢田の人口は少ないですが、優しい人ばかりです。ぼくたちが登下校している時、地域の人たちが「いってらっしゃい」や「おかえり」などあいさつをしてくれ、ぼくからあいさつをした時も優しく返してくれます。
今まで受け継がれてきた文化をこれからも守り、大人になってもこの大矢田の良さを伝えていきます。

家族の絆



澤村 琉伽
(牧谷小学校6年)

私の家族には大黒柱が一人います。おばあちゃんとお父さんです。おばあちゃんは毎日、家族のために一生懸命家事をしてくれています。お父さんは、家族のために一生懸命働いてくれています。
先日、おばあちゃんが病気になってしまい、二週間ほど入院すること

になりました。
実際に家事をやってみると、自分が想像していた以上にやるのがたくさんあり、とても大変だということを知りました。
そこでおばあちゃんの代わりにお父さんのお弁当を作ることにしました。お弁当を作るのはとても大変だけれど、お父さんがとても喜んでくれるので、その姿を見て私もとても嬉しい気持ちになります。
私はこんな素敵な家族に支えられて生活しています。お父さんやおばあちゃんがしてくれていることに感謝し、ちゃんと「ありがとう」を伝えたいです。
これからもお互いに支え合いながら、家族の絆を大切にし、みんなが笑顔で暮らせるようにしていきたいです。

「二つの温かさ」を大切に



幅 瑛輝
(中有知小学校6年)

僕は父の仕事の都合で、幼稚園から小学五年生の秋までの五年間、アメリカで生活をしました。当時の僕は、楽しみより不安でいっぱいだったことを覚えています。
渡米後、その不安はすぐに消えませんでした。それは「一人の優しさ・温かさ」に触れたときでした。毎朝、学校に

行くと「Good Morning」と声をかけてくれる子、授業中に困っている子、ランチタイム中にジェスチャーで笑わせてくれる子など、僕の周りには「優しく、温かい人」「周囲へ気遣いができる人」がたくさんいました。
一方、日本に帰ってくるのが決まった時は、渡米の時のような不安はありませんでした。初めて登校した日、たくさん仲間が話しかけてくれました。また、僕が重い物を運んでいるときに手伝ってくれる仲間もいました。
僕は、二つの国での「温かい声かけ」や「温かい行動」が大きな安心感を与えてくれることを経験しました。今度は、僕がたくさんの人に「温かさ」を伝えたいと思います。

Let's make the

fantastic school

(レッツメイクザ
ファンタスティックスクール)



私たちの挑戦で大切にしてきたことは、自分たちで考え創り上げることです。高学年集会や学年集会で何度も議論してきました。私たちの願いや思いから実現した活動を3つ紹介します。



寒水 希乃花
(美濃小学校6年)



今井 紬
(美濃小学校6年)



日比野 由菜
(美濃小学校6年)

No.1「Trial Day(トライアルデー)」

トライアルデーの日は、授業が午前中で終わり、午後からは自分のやりたいことをおもいっきりやります。

11月のトライアルデーは、なんと、テレビ番組でお馴染みの『逃走中』美濃小バージョン』をやりました。

No.2「京都駅周辺ナイトウォーク」

私たちの修学旅行では、京都駅周辺のナイトウォークに挑戦しました。夜、自分たちだけでホテルを出て、宇宙ステーションのような京都駅、夜景を楽しめる京都タワーでの散策を楽しみました。

No.3「自由進度学習」

自由進度学習は、自分で学ぶ方法を選択し、自分で学習を進めます。困ったときは、仲間と自由に学びあうことができます。

最後に

この経験を通して、学校ってやっぱり、自分たちで考えたことが実現できる場であってほしいなと思います。私たちは4月から中学生になります。中学校へ進学しても、みんなが行きたいと思える明るくfantasticな学校を自分たちの手で創り上げていきたいです。

栗色の野良猫



佐藤 皓心
(美濃中学校2年)

半年前のある日、家の前に一匹の猫が現れました。お腹が空いたように何か食べ物をお願いしたいと思ってお父さんに相談しました。そこで僕は初めて地域猫の活動にかかわることになりました。

猫を地域で管理する猫のことです。世の中には猫が好きで、野良猫を守っていきたく思う人がいます。一方、猫が嫌いでも野良猫を迷惑な存在と感じ殺処分されたいと思う人もいます。また、野良猫には野良猫の一生があります。それぞれが異なる思いを持ちながら、同じ地域で一緒に暮らしていかなければなりません。

僕の家にも現れた猫は、手術後、マロンと名付けられました。僕はマロンが地域猫活動によって、地域の人と仲良く自由に暮らしていることがとてもうれしいです。

これからも、もっと多くの地域活動に参加し、地域に住む人はもちろん動物たちも一緒に仲良く暮らせるまちにしていきたいです。

配慮することは 良いことか



高井 祐花
(昭和中学校2年)

自分の配慮は本当に正しいかと考えたことはありますか。私は「配慮することは良いことか」について考えました。

配慮する側の視点です。私はバスケットボール部に所属しています。別のチームの子が持つ器具が重そうだったので、代わるよと声をかけま

した。相手は大丈夫と言いましたが、申し訳なさそうにいました。善意で声をかけたつもりが、相手には迷惑だったかもしれません。

次に配慮される側です。友達がリーダーでバトンパスをミスし、他の友達から励まされました。その子は励まされたことは嬉しかったけれど、自分のミスによりさらに追いつめられた気分にもなっていました。人によって価値観が違い、自分は大丈夫と思った言葉も、相手は嫌に感じってしまうかもしれません。

私の学年では「他者意識」という言葉が出てきます。配慮する側だけでなく、される側も相手のことを考えて動くことを大切にしています。

私の配慮が、相手の配慮が、お互いの心に届きますように。

「二人一人が考えて」



西部 友紀乃
(美濃中学校2年)

私は、初めて会った人や近所の人に「何年生？」と聞かれ、「中学生です」と答えるとびつくりされることがあります。また、学校生活でも「ちび」と言われることがありました。身長のことや話題に上がるたびに、私は悔しくて悲しい気持ちになりました。

した。

そんな私に寄り添って一緒に考えてくれたのは家族や先生でした。お母さんからの「小さくても良いことがあるよ。」という言葉や、先生からの「ずっと心の中に抱え込んでいたんだね。これからは頼ってね。」という言葉に勇気をもらいました。そして、私にもできることがあると考えることができました。

言葉は人を傷つけることもでき、救うこともできることを、私は知っています。

これからは目の前で苦しんでいる人がいたら、そっと寄り添って、ゆっくりと話を聞いて、一緒に考えて、私にできることを精一杯してあげたいです。

将来役に立つ学習



古田 紗也
(昭和中学校2年)

みなさんは「今、学んでいることは本当に将来役に立つのだろうか」と考えたことはありませんか。私は、数学の証明や国語の文法などを学んでいる時に、なぜ学ぶのだからかと度々考えます。しかし私の考えには「勉強が面倒だからやりたくない」という私情が

挟まっているようにも思いました。そこで私は、学校で学ぶことは将来の役に立つのかということと、私の考える将来役に立つ学習について述べようと思います。

例として、数学の証明はデザインや建築などの仕事に使うことがあると分かりました。また、今使っている言葉や話し方も、自然とできるようなった訳ではなく、昔学んだから使えるようになったものです。

将来の役に立つ学習だと思っても、実際に社会に触れる体験学習や、社会人になった時に知っておくとよいこと、便利なこと、私には、今学んでいることに頑張っ取り組み、将来に役立てたいと思います。

海は生きている



太田 勇次郎
(美濃中学校2年)

僕は、毎年夏に家族で海に行きます。小学三年生のとき、海岸にごみが捨てられていたのを見ました。秋になりかけた頃、僕は一つのニュースを見ました。それは、海亀の鼻にプラスチックのストローが刺さって、痛そうにしているものでした。僕は、その映像に

衝撃を受けました。

その頃、授業でSDGsを勉強し、十四番の「海の豊かさを守ろう」について調べました。すると、海には年間八百万トンのごみが捨てられているのを知りました。

海のない岐阜県に住む僕たちには関係ないことだと思いかもしれません。しかし、川があります。川は海へとつながっています。僕たちが少しでも川岸や海岸にあるごみを拾い、ポイ捨てをしないうえに、簡単にできることをしていけば、いつまでもきれいで魚がたくさん住む豊かな海になると思います。自分たちだけが良ければ良いという考え方はなく、未来の豊かな生活を守っていかねばならないと思います。

モーション



市原 柳奈子
(関高校1年)

「モーション！ 五分間の主張を提案します。」
これは模擬国連会議での進行に対する提案です。模擬国連会議は国際連合で行われている会議を、学生が一国の大使となって会議を行うものです。
私が初めて模擬国連に出会ったの

は中学二年生の夏でした。もともと議論は好きだったものの実際に会議に参加してみると、自分、つまり自国だけではなく、他人、つまり他国など全体の利益を考える必要があり、私にとって新しい経験でした。協調性の大切さを知り、面白い活動だと思いました。

私は昨年度、アメリカに留学し、ここでも模擬国連に参加し、現在も活動しています。

この模擬国連という活動に関わって、国際関係についてさらに興味を持ち、自分自身の視野も広がりました。またこの活動を広めたい、自分自身の経験を積みたいと思いたい、自分自身に経験が積まれているように思っています。
このように私は模擬国連により「モーション」、動かされ続けています。